

# 総合政策学部

## 総合政策学科 科目一覧

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
<b>必修科目</b>						
11101	文明論概論	春学期	2	1	野田 宣雄	本年度不開講
11105	総合政策入門	春学期	2	1	田中 恭子	
11106	総合政策入門	秋学期	2	1	福井 治弘	
11111 } 11136	総合政策プロジェクト研究Ⅰ		各4	3		
11141 } 11166	総合政策プロジェクト研究Ⅱ		各4	4		
<b>選択分野別必修科目</b>						
11171 } 11174	総合政策外国文献講読Ⅰ(英語)		各2	3		本年度不開講
11175	総合政策外国文献講読Ⅰ(フランス語)		2	3		
11176	総合政策外国文献講読Ⅰ(スペイン語)		2	3		
11177	総合政策外国文献講読Ⅰ(中国語)		2	3		
11181	統計解析		2	2		
11186	コンピュータプレゼンテーション		2	3		
11191 11192	総合政策数量的アプローチ		各2	3		
<b>選択必修科目</b>						
11201	環境学概論	春学期	2	1~2	目崎 茂和	
11203	マクロ経済学	秋学期	2	1~2	村松 久良光	
11205	ミクロ経済学	春学期	2	1~2	加藤 尚史	
11207	産業心理学	秋学期	2	1~2	高橋 潔	
11211	政治学概論	春学期	2	1~2	福井 治弘	
11213	経営学	秋学期	2	1~2	大津 誠	
11215	行政学	秋学期	2	1~2	谷 勝宏	
11217	国際関係論	春学期	2	1~2	須藤 季夫	
11221	社会学概論	春学期	2	1~2	中田 睦子	
11223	会計学	秋学期	2	1~2	亀井 孝文	
11225	環境生物学	秋学期	2	1~2	江田 信豊	

総合政策学部 総合政策学科

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考	
11227	民法	春学期	2	1~2	松 倉 耕 作	本年度不開講	
11231	憲法	春学期	2	1~2	小 林 武		
11233	統計学		2	2			
11241 ∫ 11244	総合政策外国文献講読II(英語)		各2	3			
11245	総合政策外国文献講読II(フランス語)		2	3			
11246	総合政策外国文献講読II(スペイン語)		2	3			
11247	総合政策外国文献講読II(中国語)		2	3			
11301	近現代史	秋学期	2	1~3	川 島 正 樹		
11311	地域文明論A (アジア)	秋学期	2	1~3	田 中 恭 子		
11316	地域文明論B (アジア)	夏期集中	2	1~3	吉 川 洋 子		
11321	地域文明論C (ヨーロッパ)	春学期	2	1~3	浜 名 優 美		
11326	地域文明論D (ヨーロッパ)	春学期	2	1~3	野 田 宣 雄 O. Cavallar		
11331	地域文明論E (アメリカ)	春学期	2	1~3	遅 野 井 茂 雄		
11336	地域文明論F (アメリカ)	秋学期	2	1~3	浅 香 幸 枝		
11341	地域文明論G (アフリカ)	秋学期	2	1~3	坂 井 信 三		
11351	環境と文明	秋学期	2	1~3	目 崎 茂 和		
11356	宗教と文明	秋学期	2	1~3	A. Volpe		
11361	ジェンダーと文明	春学期	2	1~3	藤 本 哲 史		
11366	産業文明論	秋学期	2	1~3	藤 原 道 夫		
11371	比較社会論	秋学期	2	1~3	中 田 睦 子		
11376	エコシステム論	秋学期	2	1~3	藤 本 潔		
11401	総合政策論 I (現代文明論)	秋学期	2	1~2	浜 名 優 美		
11406	総合政策論 I (現代国家論)	秋学期	2	1~2	野 田 宣 雄		
11411	総合政策論 I (現代企業論)		2	1~2			本年度不開講
11416	総合政策論 I (公共政策論)		2	1~2			
11421	総合政策論 I(グローバルガバナンス)		2	1~2			
11426	総合政策論 II (環境政策論)		2	2~3			
11431	総合政策論 II(国際相互依存論)		2	2~3			
11436	総合政策論 II (人的資源論)		2	2~3			

科目コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
11441	総合政策論Ⅱ（組織行動論）		2	2～3		本年度不開講
11446	総合政策論Ⅲ（先進国政治の課題）		2	3～4		
11451	総合政策論Ⅲ（国際環境と日本）		2	3～4		
11456	総合政策論Ⅲ（労働問題と政策）		2	3～4		
11461	総合政策論Ⅲ（政治構造と社会変動）		2	3～4		
11462	総合政策論Ⅲ（政治構造と社会変動）		2	3～4		
<b>選択科目</b>						
11501	国際社会と法		2	2～4		本年度不開講
11503	日本政治論		2	2～4		
11505	人権政策論		2	2～4		
11507	環境保全論		2	2～4		
11511	経済政策論		2	2～4		
11513	現代家族と法		2	2～4		
11515	国際政治行政論		2	3～4		
11517	国際貿易論		2	3～4		
11521	国際金融論		2	3～4		
11523	地域経済論		2	3～4		
11525	地域政治変動論		2	3～4		
11527	都市環境論		2	3～4		
11531	アジア国際関係論		2	3～4		
11533	アジア政治論		2	3～4		
11535	法政策比較論		2	3～4		
11537	環境経済学		2	3～4		
11541	地球環境論		2	3～4		
11543	アジア移民論		2	3～4		
11545	日本経営論		2	3～4		
11601	政治過程論		2	2～4		
11603	国際開発論		2	2～4		
11605	官僚機構論		2	2～4		
11607	労働経済論		2	2～4		

総合政策学部 総合政策学科

科目コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
11611	政治行動論		2	2~4		} 本年度不開講
11613	公会計論		2	2~4		
11615	国際組織論		2	3~4		
11617	国際経営戦略論		2	3~4		
11621	国際財務論		2	3~4		
11623	立法過程論		2	3~4		
11625	経営財務論		2	3~4		
11627	非営利組織論		2	3~4		
11631	地方自治論		2	3~4		
11633	マーケティング論		2	3~4		
11635	国際戦略論		2	3~4		
11637	経済援助論		2	3~4		
11641	監査論		2	3~4		
11643	経営労務論		2	3~4		
11645	開発政治論		2	3~4		
11647	経営分析論		2	3~4		

講 義 概 要

# 総合政策学部

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11101	文明論概論	必	春学期	2	1	野田 宣雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 ヨーロッパにおける歴史観の展開を概観した上で、シュペングラーやトインビーの文明（あるいは文化）を単位とする歴史観を紹介し、さらにハンチントンの「文明の衝突」論にも言及し、現代における文明の意義を考える。

- 【講義計画】
1. シュペングラーの『西洋の没落』について
  2. トインビーの『歴史の研究』について
  3. ハンチントンの『文明の衝突』について
  4. ヴェーバーの著作における比較文化の視点
  5. アジアの中の日本について考える

【評価方法】 成績は出席状況、筆記試験の成績等を参考にして定める

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11105	総合政策入門	必	春学期	2	1	田中 恭子	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 総合政策論は、比較的新しい学問分野であり、基礎というより応用に主眼をおく、学際的な分野である。しかし、基礎を抜きにしては、総合政策論は成り立たない。この授業では、そうした総合政策論の基本的性格を理解させ、政治学、法学、経済学、社会学等の基礎分野とどう関係にあり、それらをどう参照すべきかを考えさせる。また、総合政策論の初歩的な方法論の構築と、総合政策論の応用の試みにも踏み込んで考察する。

- 【講義計画】
1. 科目の目的と内容、講義計画
  2. 政策科学の起源とその背景——欧米と日本
  3. アメリカ型政策科学の発展
  4. 政策科学の諸類型
  5. 政策決定の基礎概念
  6. 政策決定の構成要素
  7. 政策決定のモデル（1）
  8. 政策決定のモデル（2）
  9. 政策過程の諸段階
  10. 政策分析の方法と戦略
  11. 政策評価の意義と方法
  12. 結び：政策科学と民主政治

【評価方法】 学期末の筆記試験

【テキスト】 宮川公男『政策科学入門』東洋経済新報社、1995年。

【その他】 参考書：加藤寛・中村まづる『総合政策学への招待』有斐閣、1994年。  
大谷実ほか『総合政策科学入門』成文堂、1998年。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11106	総合政策入門	必	秋学期	2	1	福井 治弘
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 総合政策論は、比較的新しい学問分野であり、基礎というより応用に主眼をおく、学際的な分野である。しかし、基礎を抜きにしては、総合政策論は成り立たない。この授業では、そうした総合政策論の基本的性格を理解させ、政治学、法学、経済学、社会学等の基礎分野とどういう関係にあり、それらをどう参照すべきかを考えさせる。また、総合政策論の初歩的な方法論の構築と、総合政策論の応用の試みにも踏み込んで考察する。

- 【講義計画】
- 1 科目の目的と講義計画について
  - 2 政策科学の歴史的背景
    - 近代欧米における生成・発展
    - 日本における生成・発展
  - 3 アメリカ型政策科学発展の知的・社会的文脈
    - 学界の動き
    - 社会的文脈
    - 政府予算編成方法論との関連
  - 4 現代政策科学の類型と批判
    - 政策科学の諸類型
    - 既存アプローチの批判
    - 分析射程と応用範囲
  - 5 基礎概念
    - 「公共政策」論
    - 私益・市場と公益・政府
  - 6 政策決定の構成要素
    - 決定環境
    - 決定構造
    - 決定過程・参加者
  - 7 政策決定モデル（1）
    - 利益・圧力集団
    - エリート支配
    - 制度論
    - 合理選択
    - 増分主義
  - 8 政策決定モデル（2）
    - スキャニング
    - ゴミ箱
    - 公共選択
    - ゲーム理論
    - システム論
  - 9 政策過程
    - 政策過程の距離・段階
    - 議題設定段階
    - 政策決定段階
    - 政策実施段階
  - 10 政策分析の方法と戦略
    - 分析モデルの類型
  - 11 政策評価
    - 評価の意義と目標
    - 評価の基準
    - 評価の実際
  - 12 結び：政策科学と民主政治

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 宮川公男著 『政策科学入門』 東洋経済新報社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11201	環境学概論	選	春学期	2	1～2	目崎 茂和	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 本講義では、地球環境に関する基本的な理解の修得を水圏の観点から目指すべく、日本の海域を始め東アジア全般の風土を例にとりあげながら、自然・生物圏の形成・進化・変動などの基礎理論を中心に学習する。さらに、環境に対する人間の思想や自然観、また環境問題への具体的対応について検討する。

- 【講義計画】
- (Ⅰ) 環境学をなぜ学ぶのか
    - 楽しい環境学、役立つ環境学はあるのか
    - 私的な環境を見つめ直そう
  - (Ⅱ) 地球人になるための環境学
    - 地球環境の成り立ち。
    - 地球環境問題の行方
  - (Ⅲ) 生々した環境を
    - エコライフと環境政策

【評価方法】 レポート、発表、テストなどによる。

【テキスト】 目崎茂和 (1998)『図説 風水学』(東京書籍、¥1500+α)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11203	マクロ経済学	選	秋学期	2	1～2	村松 久良光	
他の科目との関連	ミクロ経済学、労働経済論、総合政策論Ⅲ (労働問題と政策) 国際貿易論、国際金融論					他学科履修	可

【講義内容】 マクロ経済学では、生産活動を営む企業部門と消費活動を営む家計部門、公共財の提供と政策を司る政府部門、そして海外部門の4つの部門から一国の経済が構成されると捉える。そして、主体の行動を分析し、その相互作用から総体としての産出量であるGDPの決定メカニズムを説明し、失業、インフレの発生とその制御のための政府の基本的な政策、マクロ経済における金融の役割、貿易、為替レートの効果などを学ぶ。これを学ぶことによって経済学の視点から総合的な政策立案の基礎的な枠組を修得する。

【講義計画】 下記のテキストにしたがって講義をし、東アジアの経済危機と再生をトピックスとする。

- |      |                                |                                      |
|------|--------------------------------|--------------------------------------|
| 第1回  | 自動車産業と経済学 (第1章)                | 2 経済学とは何か                            |
| 第2回  | 3 混合経済における市場と政府<br>5 科学としての経済学 | 4 ミクロ経済学とマクロ経済学<br>6 なぜ経済学者の意見は異なるのか |
| 第3回  | マクロ経済学と完全雇用 (第8章)              | 2 経済成長                               |
| 第4回  | 1 マクロ経済活動の目的と測定                | 4 インフレーション                           |
| 第5回  | 3 失業<br>5 基本的マクロモデル            | 6 労働市場                               |
| 第6回  | 7 生産物市場                        |                                      |
| 第7回  | 8 資本市場 9 一般均衡<br>経済成長 (第9章)    | 10 基本的完全雇用モデルの拡張                     |
| 第8回  | 1 成長の基礎要因 2 生産性                |                                      |
| 第9回  | 3 東アジアの奇跡と生産性<br>失業と総需要 (第10章) |                                      |
| 第10回 | 2 経済不況：概説 3 総需要の決定要因           |                                      |
| 第11回 | 4 消費 5 投資                      |                                      |
| 第12回 | 6 政府と貿易 8 総需要の再生               |                                      |
| 第13回 | 東アジアの経済危機と再生                   |                                      |

【評価方法】 ・講義への参加熱心度と定期試験の結果から評価する。

【テキスト】 ジョセフ・E/スティグリッツ著『スティグリッツ入門経済学第2版』(東洋経済新報社、1999.4) 著者は、

世界で最も著名な理論経済学者であり、同時に世界銀行上級副総裁として実際の政策（東アジアの経済）にも関与している意欲的な学者である。講義では、この本の一部しか使わないが、「ミクロ経済学」のテキストとしても使われる予定であり、また、3、4年次になって必要に応じて自習するのに最適な本である。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11205	ミクロ経済学	選	春学期	2	1～2	加藤 尚史
他の科目との関連						他学科履修可

**【講義内容】** 経済学は、総合的な政策を立案するにあたって有用であり、分析の対象に従ってふたつに分けられる。そのひとつのミクロ経済学においては、経済を構成する個々の主体の行動が扱われる。講義では、ミクロ経済学に関する理論的な解説を加えると同時に、現実的な問題の分析を通してその有用性を示す。

**【講義計画】**

1. 序論
2. 家計の行動  
選好／価格／所得／需要
3. 企業の行動  
技術／収入／費用／供給
4. 市場の構造  
均衡／調整／変化

**【評価方法】** 定期試験と出席状況に基づいて評価する。

**【テキスト】** ジョセフ・E・スティグリッツ『入門経済学』（第2版）。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11207	産業心理学	選	秋学期	2	1～2	高橋 潔
他の科目との関連						他学科履修可

**【講義内容】** 能力・性格・職務行動などの個人差に関して展開されてきた様々な理論と測定技法を、企業組織における募集・採用・選抜・人材評価などの人事政策に応用するために、心理学の基礎理論と応用研究を展望する。とくに、職務分析・採用・管理職選抜・妥当性・人事考課法・雇用差別などについて、関連する諸研究の知見を紹介する。

**【講義計画】**

講義計画

1. 講義展望
2. 心理テストにおける個人差、男女差
3. 男女雇用機会均等
4. 能力を測る心理テスト1：知能検査
5. 能力を測る心理テスト2：適性検査
6. 性格を測る心理テスト1：性格検査
7. 性格を測る心理テスト2：投影検査
8. 採用面接で何が測られるか
9. 採用面接の落とし穴
10. 個人の貢献度を査定する：人事考課
11. 仕事の成果を評価する：目標管理
12. 産業界にたいする心理学のかかわり

**【評価方法】** 定期試験による

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11211	政治学概論	選	春学期	2	1～2	福井 治弘	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 政治、すなわち公共財及びサービスの生産、分配、消費をめぐる行為と規範と、その理論的、体系的な研究としての政治学を理解させるために、「権力」、「正統性」、「自由と平等」、「公益」といった現代政治学の基礎的概念と主要な研究方法を解説する。

- 【講義計画】
- 1 政治と政治学  
政治とは何か  
政治学とは何か
  - 2 政治と権力  
権力と権威  
国際政治における権力
  - 3 政治とイデオロギー  
イデオロギーと政策  
ナショナリズム
  - 4 集合的選択の政治  
集合行為の理論  
国際的集合財
  - 5 政策過程に関する理論  
グループ論  
官僚政治論  
多元主義・コーポラティズム  
エリート論
  - 6 政治体制論  
政治システム論  
国家とは何か  
制度とは何か  
世界システム

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 大嶽秀夫、鴨武彦、曾根泰教著 『政治学』 有斐閣

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11213	経営学	選	秋学期	2	1～2	大津 誠	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 現代社会における企業及び非営利組織の経営活動について考察する。企業等を有機的経営組織体として総合的・体系的に理解することに重点を置き、会計、財務、マーケティング、人事等経営の個別機能について言及し、経営者の役割、経営のグローバル化、日本の経営、経営戦略、組織構造などについても講義する。

- 【講義計画】
- 第1回 企業と環境
  - 第2回 企業の社会的責任
  - 第3回 経営者の職能
  - 第4回 経営理論（古典的アプローチ）
  - 第5回 経営理論（今日のアプローチ）
  - 第6回 経営戦略プロセス
  - 第7回 経営戦略アプローチ
  - 第8回 経営組織
  - 第9回 組織再設計
  - 第10回 グローバル経営

第11回 日本の経営  
第12回 経営の今日的課題

【評価方法】 中間テスト 40  
定期試験 60  
計 100

【テキスト】 岸川善光『経営管理入門』1999年 同文館

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11215	行政学	選	秋学期	2	1~2	谷 勝 宏
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 現代行政の政治分析

【講義内容】 従来の伝統的な行政学である行政管理論の基本的な概念の説明を行う。さらに、現代の日本の官僚制の分析や、行政機構における政策の形成・執行過程、中央・地方政府間関係、諸外国の行政の実態及びそれとの比較、行政改革の動向や、行政とNPOの関係など、現在の行政・行政学の主要な研究・問題領域についての最近の理論や実態について説明を行う。これらを通じて現実の日本の政治・行政を観察し、分析する方法を身に付けることを目標とする。

【講義計画】 第1回 行政学の枠組み  
第2回 行政システムの発展  
第3回 現代日本の行政システム  
第4回 中央・地方関係と地方自治  
第5回 政策過程と企画立案  
第6回 行政組織の基礎理論  
第7回 組織設計  
第8回 組織の管理運営  
第9回 公務員制度と人事行政  
第10回 政策の実施  
第11回 政策評価と行政責任  
第12回 行政の新しい展開

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 村松岐夫『行政学教科書』（有斐閣）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11217	国際関係論	選	春学期	2	1~2	須藤 季夫
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 国際関係の歴史、概念、構造を概観し、政策思考を高める観点から相互依存、対外政策やレジーム・アプローチ等を中心とした基礎知識を習得する。とくに、国際社会が直面する諸問題を歴史的ならびに理論的に考察し、現在の国際社会を体系的に捉える分析枠組みを学習する。

【講義計画】 [1] 国際関係論 (IR) とは何か [10] 第三世界と国際関係  
[2] 国際関係の歴史的展開 [11] 国際関係と日本外交  
[3] 国際関係の捉え方 (リアリズムとリベラリズム) [12] アジアの勃興と国際関係の挑戦  
[4] 国際関係の理論 (世界システム論と政策決定論)  
[5] 国際関係の構造 (米国、ロシア、中国)  
[6] 冷戦の展開と終焉  
[7] 安全保障と地域紛争

- [8] ポスト冷戦と相互依存の世界
- [9] グローバリズムとリージョナリズム

【評価方法】 レポートと期末試験

【テキスト】 原 彬久編『国際関係学講義』有斐閣、1996

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11221	社会学概論	選	春学期	2	1~2	中田 睦子
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 複雑、多岐にわたる社会を理解するために、広範な領域で社会的知識が求められている。しかし、人間についての諸科学のなかで、社会学に独自の位置を与えるような、中心的概念と視点等を簡単に紹介することは難しい。そこで本講義では、社会学の歴史のなかでこれまで受け継がれ、議論されてきた著名な「命題」を紹介し、それによって社会学の知識を身に付けさせる。

- 【講義計画】
- 1 社会学的命題とは
  - 2 G.Hミード 自我の社会性
  - 3 Mミード 文化としての性差
  - 4 ベイトソン ダブルバインド
  - 5 マートン 予言の自己成就
  - 6 ジンメル 外集団の敵対と内集団の親和
  - 7 メイヨー インフォーマル組織の発見
  - 8 モース 贈与論
  - 9 オグバーン 文化遅滞
  - 10 デュルケーム 人格崇拜の成立
  - 11 リースマン 高度産業社会と他人指向型
  - 12 ヴェブレン 誘示的消費

【評価方法】 定期試験。授業への参加度（質疑応答）も評価対象とする。

【テキスト】 作田啓一・井上俊編『命題コレクション社会学』筑摩書房

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11223	会計学	選	秋学期	2	1~2	亀井 孝文
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 企業会計を中心に会計行為に関わる基礎的な諸概念および計算書の作成と表示機能等を理論と制度の両面から解説する。また、管理会計の領域や非営利事業の会計を考慮に入れながら、会計の果たす機能を考える。その理論および制度がいまや環境問題を含めて社会的な観点と世界的な観点を必要としていることにも言及し、一般企業と同時に行政においても要請される会計思考を修得させることを目指す。

- 【講義計画】
- (1) 「会計」の役割、会計学と隣接社会科学との関連、会計学における諸領域簿記
  - (2) 複式簿記の意味と諸概念（仕訳、転記等）、帳簿組織の基本構造（仕訳帳と元帳）
  - (3) 勘定科目の名称、仕訳帳への記入と元帳への転記の事例、決算の意味
  - (4) 決算の手続、損益計算書と貸借対照表との計算構造的関係
  - 会計原理
  - (5) わが国における会計制度の生成と発展、とくに、証券取引法会計と商法会計
  - (6) 企業会計原則の役割、その構成と内容（とくに、一般原則の内容）
  - (7) 費用収益の認識と測定（発生主義と実現主義の意味）、損益計算書の構造と本質
  - (8) 貸借対照表の構造と本質（貸借対照表の言明能力）、資産の評価：1（原価評価）
  - (9) 資産の評価：2（時価評価）、負債の評価（とくに、退職金・年金債務の問題）

- (10) 資本の内容と構成（資本剰余金と利益剰余金の意味、その処分可能性と手続）  
 発 展  
 (11) 会計制度の改革（時価主義会計、連結財務諸表、現金収支計算書、税効果会計等）  
 (12) 会計学の拡大（公会計〈国・地方自治体の会計〉、環境会計・環境監査等）

【評価方法】 出席状況を重視する。試験・レポートによって評価するが、欠席過多の者は学期末の試験を受験できない。

【テキスト】 未定

【その他】 経営分析論、監査論、公会計論を履修する場合の前提となる科目である。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11225	環境生物学	選	秋学期	2	1～2	江田 信豊	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 生態系のシステムのなかで、環境評価指標として、最近昆虫類は重要な構成要因と考えられるようになった。本講義では、まず生態学にベースをおいた基礎的な生態系のシステムを習得させ、昆虫類を中心として、都市環境と里山環境の比較を行う。その中で、それぞれの環境における、生物の多様性についての考察を行ってゆく。昆虫の捕獲採集・同定分類を通して、里山環境における生物の多様性を認識させる。さらに講義では昆虫の多様性の歴史と昆虫の持つ環境特性について、観察実験と講義の両面から論じてゆく。

- 【講義計画】
1. 里山環境を構成する生物たち
  2. 3. 海上の森の観察（実験・観察）
  4. 昆虫の分類
  5. 6. 海上の森の昆虫の分類（実験）
  7. 8. 昆虫と共生する原生動物の観察（実験）
  9. 環境指標種としての昆虫
  10. 消え行く野生動物
  11. 愛知万博と海上の森
  12. 里山環境の保全

【評価方法】 レポートと出席で総合的に評価する。

【テキスト】 授業中にプリントを配布すると共に参考図書については授業で示す。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11227	民法	選	春学期	2	1～2	松倉 耕作	
他の科目との関連	法学、憲法、家族法					他学科履修	可

【副 題】 生活に必要な法律知識

【講義内容】 私法を中心とする民法のうち、財産法を中心に講義する。扱う領域としては、担保法、契約法、不法行為法などを中心として講義する。また、法律の変遷などに論及することにより、法政策の変化を理解させ、政策・立案の思考を取得できるように講義する。

- 【講義計画】
- (1) 民法入門
  - (2) 不法行為 1 交通事故
  - (3) 同 2 犬の事故
  - (4) 契約 未成年者の契約
  - (5) 同 消費者保護
  - (6) 同 どんな場合に契約は無効となるか

- (7) 担保法 借金する場合の留意点
- (8) 同 家の購入とローンの設定
- (9) 不動産取引の留意点
- (10) 裁判外での紛争の解決
- (11) 裁判所による保護
- (12) 質問時間、テストについて

【評価方法】 テストの成績と受講態度

【テキスト】 嵯峨野書院・資料で学ぶ財産法（松倉耕作編）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11231	憲法	選	春学期	2	1~2	小林 武	
他の科目との関連	民法を受講することが望ましい。					他学科履修	可

【副題】 政策の目でみた憲法学

【講義内容】 わが国の国家・社会の全体にわたる政策を支える憲法について概観する。とくに憲法政策に重点を置き、まず憲法が、現実の立法・行政・司法の各過程を通してどのように実現されているかを論じて、憲法を現実化するための政策を考える。次に、将来の憲法のあり方をめぐって提起される憲法改正の問題をとりあげ、改憲論のこれまでの経緯と現状、そして国と社会の基本法の望ましい姿を考察する。

【講義計画】 ほぼ次の順序で進める。

- 1 憲法とは何か——憲法と政策
- 2 近代憲法の誕生とあゆみ
- 3 日本の憲法
- 4 日本国憲法の制定過程と基本原理
- 5 国民主権と天皇制のあり方
- 6 平和をつくる——平和政策の試み
- 7 人権——実態と人権確保の政策
- 8 国の機構と政策形成の過程
- 9 司法制度と裁判
- 10 地方政策を地域でつくる
- 11 新憲法への展望
- 12 憲法政策の先にみえるもの

【評価方法】 テスト（筆記試験）による。

【テキスト】 小林 武著『ようこそ日本国憲法へ』（法学書院、2200円）

【その他】 毎時間、具体的な憲法問題、つまり憲法政策の日常的な展開の姿を、新聞・TVのニュースをとりあげて話す。そのことをとおして、わかりやすい講義にできるようにしたい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11301	近現代史	選	秋学期	2	1~3	川島 正樹	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 アメリカ合衆国近現代史とアメリカ合衆国が現在直面する大都市の差別と貧困

【講義内容】 常に同時代史としての現代史を意識しつつ、近現代という時代区分の意義を押さえ、近代世界システム論やヨーロッパ中心主義批判論を手がかりに、近現代の出発点の本質的問題性を把握する。とくに、奴隷貿易と奴隷制に注目しながら大西洋貿易システムを通じた英国の覇権の確立と英領北米植民地の発展、独立を経て南北戦争と二つの大戦を契機とした米国の覇権の確立から「第三世界」を巻き込んだ冷戦、そし

て冷戦後までの世界を、「上から」と「下から」の双方の視点を交錯させつつ概観する。

- 【講義計画】
- 第1回 はじめに：本講義の趣旨や最終的獲得目標などの説明
  - 第2回 近現代史の時代区分の意味（その1）：コロンブスによる新世界到達の意味
  - 第3回 近現代史の時代区分の意味（その2）：「自由」と「不自由」の同時展開
  - 第4回 イギリスの覇権と北米植民地の発展：奴隷制が支えた13植民地
  - 第5回 アメリカ合衆国の独立：「革命」と奴隷制の同居の意味
  - 第6回 南北戦争と奴隷制：奴隷制が争点となるまでと廃止にいたる過程
  - 第7回 19世紀末から20世紀初頭の差別体制の復活：差別体制復活の経緯と背景
  - 第8回 冷戦と市民権運動の高揚：キング牧師の夢に燃えた1960年代のアメリカ
  - 第9回 いまだ果たされることのない夢：法的差別から事実としての差別へ
  - 第10回 現代アメリカ大都市の貧困と差別（その1）：「アンダークラス」の苦境
  - 第11回 現代アメリカ大都市の貧困と差別（その2）：「アンダークラス」と人種偏見
  - 第12回 現代アメリカ大都市の貧困と差別（その3）：「アンダークラス」の救済方法

【評価方法】 小テスト（3回実施、45%）と最終レポート（55%）による。授業中の積極的な態度（質問や意見陳述）はプラスに評価する（エクストラ・クレジットとして加算）。

- 【テキスト】（テキストというより参考書として次の5冊を推薦する。括弧内は対応授業時）
- ・川北稔『砂糖の世界史』（岩波ジュニア新書276）（2～4）。
  - ・安武秀岳『大陸国家の夢 新書アメリカ合衆国史①』（講談社現代新書929）（4～6）。
  - ・野村達朗『フロインティアと摩天楼 新書アメリカ合衆国史②』（講談社現代新書933）（6～7）。
  - ・上杉忍『パクス・アメリカーナの光と陰 新書アメリカ合衆国史③』（講談社現代新書938）（8～9）。
  - ・ウィリアム・J・ウィルソン『アメリカ大都市の差別と貧困』（明石書店、定価4800円）（9～12）。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11311	地域文明論A（アジア）	選	秋学期	2	1～3	田中 恭子
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 東アジアの近代

【講義内容】 北東アジア（現在の日本・韓国・朝鮮・中国）は、古代から近世に至るまで圧倒的な中華文明の影響下にあったが、東南アジアは、ベトナムを除いてインド文明圏に属していた。まず、両地域それぞれの文明の変遷と外部世界との交流を概観し、次に、伝統文化の違いが、北東アジアと東南アジアの近代化にどのように反映したかを検討する。さらに、近代化過程における文明の変容、とくに西洋文明のインパクトとその受容形態を分析し、最後に、北東アジア・東南アジアにおける新しい文明の創造と伝播を展望する。

- 【講義計画】
1. 中華文明圏とインド文明圏
  2. 西洋との出会い——大航海時代
  3. 「西洋の衝撃」
  4. アヘン戦争と日本の開国
  5. 中国と日本の近代化改革
  6. 東南アジアの植民地化（1）海洋部
  7. 東南アジアの植民地化（2）大陸部
  8. 東南アジアの近代化
  9. アジアのナショナリズム
  10. 太平洋戦争
  11. 冷戦、そして経済発展の落差
  12. 新たなアジア文明

【評価方法】 学期末の筆記試験

【テキスト】 なし

【その他】 参考書 尾形勇・岸本美緒編『中国史』山川出版社、1998年、第5～8章。  
石井米雄編『東南アジアの歴史』講座東南アジア学4、弘文堂、1991年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11316	地域文明論B (アジア)	選	夏期集中	2	1~3	吉川 洋子	
他の科目との関連						他学科履修	可

**【講義内容】** 東南アジア地域は文化と文明の混淆・多層性・多様性の世界である。本講義では、東南アジアの焼き畑や稲作文明等の生態環境に触れたあと、それと深く関わる部族文化や儀礼等の基層文化及び仏教、イスラム教等の伝播文化を紹介し、同地域に発達した王朝と王権の思想、そして近代の植民地化やキリスト教の受容など欧米化現象について検討する。

- 【講義計画】**
- 1 地域の捉え方
    - 1-1 「アジア」、「東南アジア」、「ASEAN」、「APEC」
  - 2 世界、圏の捉え方
    - 2-1 「文明の生態史観」 稲作社会 海域世界
    - 2-2 マレー人世界、華人ネットワーク圏、東南アジア世界
    - 2-3 大東亞共栄圏、自由陣営
  - 3 文化の混ゆる、クレオール
    - 3-1 基層文化、部族文化、焼畑 アニミズム、慣習法、
    - 3-2 民族国家から国民国家の形成：複合民族（多言語、多宗教）多数と少数の概念
  - 4 東南アジアの外文論：古典文明の伝播、出会い 重層（5回講義）（ビデオ教材使用）
    - 4-1 文明論 Hungtington 「文明の衝突」論
    - 4-2 ヒンドゥー-仏教文明化（インド化）王権、王朝、バガン、クメール ジャワ
    - 4-3 中国文明化、タイ族、ビルマ族 ベトナム、華人圏
    - 4-4 イスラム文明化 スルタン マラッカ王国、ジャワ 南西ミンダナオ
    - 4-5 カトリック文明化 欧米による植民地化、
    - 4-6 近代文明、資本主義文明、グローバル化現象
  - 5 国民国家フィリピン：「フルーツの重層のパイ」（4回講義）
    - 5-1 基層文化：マレー人社会 バランガイ社会 少数山岳部族の問題、
    - 5-2 イスラム文明 ムスリムアイデンティティ 南部フィリピン・ムスレム
    - 5-3 イベリア半島文化 フォーク・カトリシズム 近代欧州文明  
「フィリピン群島・フィリピン人」の誕生。混血地主層
    - 5-4 アメリカ文化（政治経済自由主義）植民地国家（制度、法律、英語、近代教育）
    - 5-5 フィリピン国民文化：「共和国」文化、二層構造社会、農村と都市、経済開発、市民社会の発芽、アセアン地域民
    - 5-6 法体系の重層化：慣習法（小教民族土地法）、共和国法、ムスレム家族法、世界基準の立法、民主制、人権、環境、少数者保護、ローカル基準の実施能力  
ヒトのグローバル化（移住、出稼ぎ移民600万人、180カ国）

**【評価方法】** 定期試験による

**【テキスト】** 河辺利夫「東南アジア」（世界の歴史）河出書房新社（文庫本）  
上智大学アジア文化研究所編「入門東南アジア研究」めこん  
参考書：立本成文「地域研究の問題と方法」京都大学学術出版1996年  
矢野暢「東南アジア学へ招待」NHK

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11321	地域文明論C (ヨーロッパ)	選	春学期	2	1~3	浜名 優美	
他の科目との関連						他学科履修	可

**【講義内容】** 地中海世界論は地理的には地中海とその周辺地域（ヨーロッパ、北アフリカ、中近東）を対象とする。まず地理的な環境の問題を取り上げ、次に歴史的には16世紀以降の地中海世界＝経済を中心とする近代の経済・社会史を論じ、さらに文明の衝突として考えられるキリスト教世界とイスラム世界の問題を歴史的文明論として取り上げる。

**【講義計画】** 1 文明の十字路としての地中海世界の空間

- 2 地中海世界における民族紛争はなぜ絶えないか
- 3 キリスト教とイスラム
- 4 16世紀における帝国主義
- 5 経済=世界の概念
- 6 世界の尺度としての歴史学について

【評価方法】 レポートによる。

【テキスト】 参考文献として、ブローデル『地中海』全10巻、浜名優美訳、藤原セレクション。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11326	地域文明論D (ヨーロッパ)	選	春学期	2	1~3	野田 宣雄 O. Cavallar
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 (概要) ローマ帝国の崩壊後、ヨーロッパを舞台に出現したいくつかの帝国の歴史を辿り、その内部秩序、対外姿勢、文明あるいは宗教とのかかわり等について考察する。  
(オムニバス方式)  
(オズワルド・カバラル教授) 13世紀末以降のイタリア文芸復興期に活躍した政治家や法思想家(実務家)を素材に、ヨーロッパ文明の一面を考察する。  
(野田宣雄教授) 現代におけるヨーロッパ連合やドイツを中心とした「中欧」などの広域秩序への志向を取り上げる。

【講義計画】 (前半)  
1) ローマ帝国の破壊：ローマ法の俗化と野蛮民族の固有法  
2) ローマ法の復興と大学の起源 (特に総合大学「ラ studium generale」の概念の発展を辿る)  
3) 特権のある社会：中世紀の文明における法学者、弁護士、法学生の位置と特色  
4) 貴族と市民：バルトルス デ サツソフェラト「標しと紋章に就いて」  
5) 市民権 (特に女性の市民権の問題)  
6) 権力の問題：バルトルス デ サツソフェラトの「専制者に就いて」とマキアヴェリ「君主」。(以上、カバラル)  
(後半)  
1、グローバル化にともなう世界秩序の再編成  
2、ローマ帝国の崩壊と民族移動  
3、神聖ローマ帝国の形成と歴史  
4、ドイツの近代国民国家形成の遅れ  
5、20世紀における国民国家と広域秩序 (以上、野田)

【評価方法】 出席状況と学期末のレポート(3000字)(カバラル)  
成績は出席状況、筆記試験の成績等を参考にしてつける。(野田)

【テキスト】 1) マキアヴェリ「君主」、2) バルトルス デ サツソフェラト「専制者に就いて」の英訳、3) バルトルス デ サツソフェラト「標しと紋章に就いて」の英訳。2) と 3) のテキストが配布されます。(カバラル)

【その他】 オムニバス

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11331	地域文明論E (アメリカ)	選	春学期	2	1~3	遅野井 茂雄
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 グローバル化とラテンアメリカ

【講義内容】 ラテンアメリカ、とくに南米に焦点を絞り、この地域の文明を形成する固有の原理を、その歴史プロセス

とともに、民族、社会、政治、経済、思想の諸側面から総合的に解明する。さらにグローバリズムとの対立・葛藤・受容のダイナミックな過程を明らかにすることによって、21世紀に立ち向かうラテンアメリカ世界を展望する。

- 【講義計画】
1. ラテンアメリカ概観
  2. 多様性の中の統一
  3. 特異な民族形成
  4. 民族と社会
  5. 文化価値体系（Ⅰ）：政治文化
  6. 文化価値体系（Ⅱ）：法文化
  7. グローバリゼーションの衝撃とラテンアメリカ
    - (1) 大航海時代と植民地
    - (2) 産業革命と自由主義経済
    - (3) 世界恐慌とポピュリズム、国家中心型発展
    - (4) 債務危機とワシントン・コンセンサス
    - (5) 市場経済化の挑戦
    - (6) 民主化の波とラテンアメリカの民主主義
  8. まとめ

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 : 国本伊代・中川文雄 編『ラテンアメリカ研究への招待』新評論 1997年  
: 加茂雄三・遅野井茂雄 他『ラテンアメリカ』自由国民社 1999年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11336	地域文明論F (アメリカ)	選	秋学期	2	1~3	浅香 幸枝
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 トランスナショナル・エスニシティとラテンアメリカ

【講義内容】 本講義では、ラテンアメリカ、とくに中米に焦点を絞り、それらの国々と日本との関係を考察し、将来の環太平洋諸国間の友好関係のモデルとなりうるかを検討する。そのために、ラテンアメリカおよび日系移民の歴史や両地域間の草の根交流等について学ぶ。

- 【講義計画】
1. ラテンアメリカと日本関係の概略
  2. 政治・外交関係史におけるラテンアメリカと日本
    - 初の平等条約締結国としてのメキシコ
    - 日・米・中南米関係の特徴
  3. 移住と日系社会の形成
    - 西欧列強諸国の支配下での100年前の日本とラテンアメリカ
    - 北米移住から中南米移住へ
    - 移住100年の歴史
    - 日系社会の形成と影響力
  4. パンアメリカン日系協会の活動
    - 民主化とグローバリゼーションの時代
    - トランスナショナル・エスニシティとは何か？—越境する日本性—
    - ペルーのフジモリ大統領とパンアメリカン日系協会
    - 日系人と日本との関係
  5. 私たちにできる国際貢献とは何か？

【評価方法】 成績は出席状況、授業への積極的な参加状況、レポートを総合評価する。

【テキスト】 国本伊代・中川文雄 編『ラテンアメリカ研究への招待』（新評論）  
日本国際政治学会 編『環太平洋国際関係史のイメージ』（有斐閣）

【その他】

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11341	地域文明論G (アフリカ)	選	秋学期	2	1~3	坂井 信三	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 西アフリカ、とくにその内陸サバンナ地方は、ブラック・アフリカの文化伝統と外来のイスラームとが相まって、複雑な歴史の様相を示す独自の文明を形成した地域である。講義では多様なものの共存からなるこの地域の文明の特質を、社会構造、宗教、諸民族の生業分化と共生の様相などから論じる。

- 【講義計画】
1. アフリカ大陸概観
  2. 西アフリカの古気候と諸民族の分化  
緑のサハラ時代  
乾燥化の歴史
  3. ニジェール川中流域の歴史と文化の形成  
国家の形成と長距離交易  
大西洋奴隷貿易の影響  
イスラームの普及
  4. 異なる諸集団の共生  
内陸アルタ地方の自然と生業分化  
川と沼の漁民ボン  
氾濫原の水稲耕作民マルカ  
草原の牛牧畜民フルベ  
市場と経済的交換のシステム  
都市の構造  
異質なものの共存の流儀

【評価方法】 定期試験による

【テキスト】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11351	環境と文明	選	秋学期	2	1~3	目崎 茂和	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 本講義では、環境と文明の関わりについて学ぶため、主な古代文明の発達を、それを生み育んだ自然環境やその変遷との関係から概観する。さらに、東洋の環境思想の風水論、日本の文化論や日本人の特徴を環境（風土）論の視点から検討し、グローバル化した現代文明と地球環境の今後を考える。

- 【講義計画】
- (I) 現代文明のゆくえ  
・現代世界への視点、地球環境問題と地域環境問題
  - (II) 文明を育てた地球  
・自然環境と人類進化  
・多様な文明と環境
  - (III) 地球学と日本  
・環境思想の流れ ・風土論と風水学

【評価方法】 レポート、発表、テストなどによる

【テキスト】 目崎茂和『図説 風水学』（東京書籍）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11356	宗教と文明	選	秋学期	2	1~3	A.Volpe	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 21世紀に向かって、宗教のチャレンジ

【講義内容】 本講の目的は二つに分かれている。まず、世界文明と宗教心との密接な関わりを分析する。どんな文明、文化、時代においても人類は神の探求を続けてきたことが確かである。ここでは、自然的宗教から物質的無神論までを対象として、宗教心と宗教を考える。そして後半では、戦前と戦後の日本人の宗教心と宗教の歴史はどのように変わったかを分析する。

【講義計画】

1回	言葉の意味	7回	ユダヤ教の独創性
2回	宗教と宗教心	8回	キリスト教の啓示
3回	物質と精神	9回	キリスト教とは、宗教か人生観か
4回	宗教の「良い」点と「悪い」点	10回	キリスト教と日本文化との出会い
5回	古代人の宗教心：宗教の発生	11回	日本の宗教心
6回	古代エジプト、メソポタミア、ギリシャ、ローマの宗教	12回	なぜ日本には宗教が多いのか

【評価方法】 定期的小レポートと試験の成績による。

【テキスト】 講師が資料を毎回準備し、学生に渡す。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11361	ジェンダーと文明	選	春学期	2	1~3	藤本 哲史	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 21世紀における公共政策や企業経営戦略の立案において重要なエレメントとなるジェンダーの問題について考察し、ジェンダー・パースペクティブの政策応用可能性を探索する。主として雇用、教育、家族を考察対象分野とし、これらの分野における現在までの性の社会的構築および階層化のトレンドを概観し、男女を取り巻く現代社会状況の認識へとリンクさせる。

【講義計画】 具体的には、以下のような問題を考える。

- (1)社会的に作られた性と生物学的性の違い。性役割とは何か。(2回)
- (2)学校教育のジェンダー化。キャンパス・セクハラの問題点。
- (3)雇用における性差別：賃金と昇進の不平等構造。(2回)
- (4)家族の中の勢力関係と性役割分業。
- (5)離婚問題：結婚と家族の変容(2回)
- (6)ドメスティック・バイオレンス(2回)
- (7)同性愛という人権、性的指向性、ホモフォビア
- (8)リプロダクティヴ・ライツ、性の自己決定権とは。

【評価方法】 出席および期末試験による総合評価

【テキスト】 指定テキストなし。必要に応じて資料を配布する予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11366	産業文明論	選	秋学期	2	1～3	藤原 道夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 産業文明を理解するためには、「通文化的インダストリアリズム（産業化論）」の論理と各国の歴史・社会を背景に形成されてきた個別的な制度や過程との関係を探る必要がある。本講義では労使関係を取り上げ、「産業民主主義」など各国に共通している価値理念を確認した上で、国ごとに相違している制度や過程を理解するために、日本における企業別組合を中心とする労使関係の成立と発展について考察し、他の先進工業国との間で産業文明の上で共通である点と相違する点について分析する。

- 【講義計画】
1. 産業化（工業化）の論理
  2. 産業化の歴史的経緯～いくつかの国を対象に～
  3. 産業化への抵抗と摩擦～いくつかの国を対象に～
  4. 先進工業国と日本との比較～製品市場・労働市場・技術・企業・社会～
  5. 産業化のリーダーと労働組合のリーダー
  6. 「産業民主主義」～労使関係の目指すもの～
  7. 各国の労使関係制度の類似と相違
  8. 歴史と制度～労使関係の混乱と制度化～
  9. 戦後日本の労使関係の成立と発展（1）
  10. 戦後日本の労使関係の成立と発展（2）
  11. 「産業文明」における類似と相違
  12. まとめ

【評価方法】 宿題20%。定期試験80%。

【テキスト】 講義の中で、必要に応じ資料を配布したり参考文献等を指示したりします。

【その他】 次の書物は繰り返し言及しますので用意しておくことを薦めます。奥井智之『60冊の書物による現代社会論～五つの思想の系譜～』第6版（中公新書）中央公論社、1995年。下川浩一『日本の企業発展史～戦後復興から五〇年～』（講談社現代新書）講談社、1990年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11371	比較社会論	選	秋学期	2	1～3	中田 睦子	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 社会現象に関しては、直接的実験は限られた分野においてしか実施できない。そこで社会学においてこの実験の意味を持つのが「比較」である。我々は比較社会学という方法を通じて、我々の生きる世界を相対化し、客観化し、その特質を把握する。比較社会論の主題は、「近代社会」の特質を非近代社会との比較によって明らかにするものから、「近代社会」内部の諸類型、「非近代社会」の比較などに及ぶ。本講義ではとくに、中国、インド、アメリカ、日本の第二次集団の比較分析によって、4つの社会間での「世界観」に示される全体社会のデザインの差異を考察する。

- 【講義計画】
- 1 シュー『比較文明社会論』の資料と方法
  - 2 家族の型と心理的指向；中国とヒンズーの家族制度の類似点と相違点
  - 3 中国とヒンズーの慣習
  - 4 中国とヒンズーのクラン；中国のクランの構造と指向
  - 5 ヒンズーのクランの実質
  - 6 クランにおける緊張とその解決
  - 7 カスト；ヒンズー・カストの特質
  - 8 状況中心・超自然中心の指向
  - 9 クラブ；アメリカの家族の特徴
  - 10 個人中心の指向
  - 11 イエモト；日本の親族体系
  - 12 イエモトの構造と指向

【評価方法】 定期試験

【その他】 テキストF・L・K シュー『比較文明社会論』培風館は絶版のため、資料は講義開始時に配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11376	エコシステム論	選	秋学期	2	1～3	藤本 潔	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 本講義では、エコシステム（生態系）の概念についての一般的な解説を行った上で、近年の人間活動の活発化に伴う生態系破壊の象徴的存在であるマングローブ生態系を取り上げ、そこでの植生、立地環境、動物、集水域および海域からの物質のインプットとアウトプットについて概説する。さらに、破壊されつつあるマングローブ生態系の修復のための取り組みを例に、地球環境保全のあり方を考える。

【講義計画】

- 第1回 エコシステム（生態系）とは？
- 第2回 陸と海の境界に成立する生態系、マングローブ生態系とその役割
- 第3回 マングローブ生態系を構成する植物とその特徴
- 第4回 マングローブ生態系を構成する立地環境と植生配列
- 第5回 マングローブ生態系を構成する動物とその役割
- 第6回 マングローブ生態系における物質の移動
- 第7回 マングローブ立地の形成・維持機構
- 第8回 マングローブ生態系と地球環境問題
- 第9回 マングローブ生態系の破壊の現状と修復への試み（1）フィリピン
- 第10回 マングローブ生態系の破壊の現状と修復への試み（2）タイ
- 第11回 マングローブ生態系の破壊の現状と修復への試み（3）ベトナム
- 第12回 マングローブ生態系のあり方を考える

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 特になし。随時プリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11401	総合政策論 I（現代文明論）	選必	秋学期	2	1～2	浜名 優美	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 近代の文明はあらゆる意味で「速度」を前提として「進歩」を目指して進んできたが、現代は文明の閉塞状況にあるという認識に立って、現代の文明論的課題を既成の学問領域を横断する形で総合的に論じる。具体的には近代社会論をルソーの「社会契約論」にまでさかのぼって検討し、グローバル化の進むなかでの民族や宗教を基盤とする文明の対立の問題などを扱う。

【講義計画】

- 1 文明論の視点はなぜ重要か
- 2 「文明」と「文化」と「文明論」
- 3 「文明」概念の歴史的検討（18世紀から現代まで）
- 4 速度について
- 5 進歩について
- 6 文明の空間
- 7 文明の伝播
- 8 文明の拒絶
- 9 文明の衝突
- 10 現代文明論の可能性
- 11 予備
- 12 総括

【評価方法】 レポートによる。（欠席過多を適用する）

【テキスト】 なし。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11406	総合政策論Ⅰ（現代国家論）	選必	秋学期	2	1～2	野田 宣雄
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 近代のヨーロッパに関して、主権国民国家がいかにして成立し発展を遂げたかを述べ、それが19世紀から20世紀にかけて日本を含む非西欧世界の国家形成にいかなる影響を与えたかを論じる。さらに現代のグローバル化の傾向のなかでヨーロッパとアジアで国家がいかなる変容を遂げようとしているかを考究する。

【講義計画】

- 1、ヨーロッパの歴史観における国家の位置づけ
- 2、進歩史観と国家
- 3、ヨーロッパにおける主権国民国家の形成
- 4、ブルクハルトの歴史観における国家
- 5、グローバル化と国民国家の危機
- 6、近代ヨーロッパにおける帝国と広域秩序志向
- 7、20世紀における広域秩序と国家
- 8、文明論、帝国論の意義
- 9、ヨーロッパとアジアの国家にかんする比較

【評価方法】 成績は出席状況、筆記試験の成績等を参考にしてきめる。

【その他】 参考文献 野田宣雄著『20世紀をどう見るか』（文春新書）  
野田宣雄著『人生の教師としての歴史』（PHP新書、近刊）